

長瀬町の今後の学校のあり方について

町では、令和2年度から長瀬町学校のあり方検討委員会を設置し、学校の適正規模、適正配置等について協議を重ねています。

今回は、令和3年3月に実施した保護者アンケート（集計結果は広報6月号に掲載）に引き続き、6月に町民アンケートを実施しましたので、その概要と集計結果の一部をお知らせします。

なお、全体の集計結果につきましては、町ホームページに掲載するほか、教育委員会窓口でもご覧いただけます。

○ 調査の目的

児童生徒数の推移を踏まえ、長瀬町立小中学校において、将来にわたりより良い教育環境を維持するため、児童生徒にとってどのような教育環境が望ましいかについて、町民の意識を明らかにし、長瀬町学校のあり方検討委員会において、町内小中学校の今後の方向性をまとめるための基礎資料とすることを目的に調査をしました。

○ 調査対象

令和3年4月1日現在、町内に住民登録している世帯から無作為抽出した1,000世帯（令和3年3月に実施した保護者アンケートの対象世帯を除く）

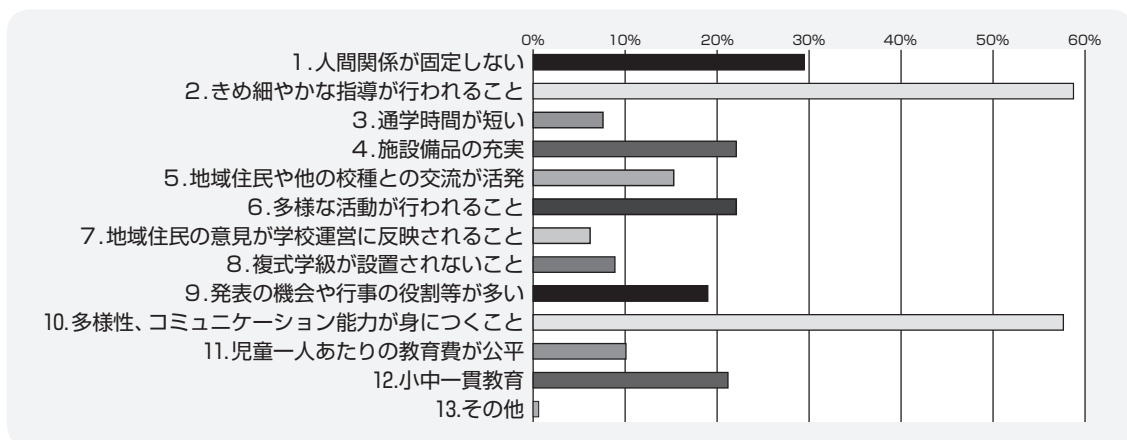
※無作為抽出とは、大字、年齢別の層に分け、各層の人口に応じた比例区分によりサンプル数を定め、そこから無作為に選び出す方法です。

○ 町民アンケートの回収率 配布 1,000件 回収 485件 回収率 48.50%

○ アンケート集計結果（一部を抜粋して掲載しています。）

問4 児童生徒にとってよりよい教育環境にするために重要だと思うこと（3つまで回答可）

「きめ細やかな指導が行われること」の回答が一番多く、次に「多様性・コミュニケーション能力が身につくこと」、「人間関係が固定化しないこと」の順となった。これは、保護者アンケートの結果と同じ順位であった。



問5 小規模化についてどのように思うか

「どちらかといえば望ましくない」、「望ましくない」を合わせると63.5%（保護者アンケートは46.9%）となり、「どちらかといえば望ましい」、「望ましい」を合わせた25.6%（保護者アンケートは29.8%）を大きく上回る結果となった。

保護者アンケートの結果と比べると、「どちらかといえば望ましくない」、「望ましくない」と回答している割合が多い結果となり、どの年代でも同様の考えの結果となった。

地域別にみると、二小区域在住者の回答では「どちらかといえば望ましくない」、「望ましくない」が89.7%と多くを占め、一小区域在住者の回答の61.1%を大きく上回った。

